

第14回全国サンマ・イカ等鮮魚大手荷受・荷主取引懇談会開催概要

- ・日 時 平成29年7月5日(水) 15:00~18:20
- ・場 所 ANAクラウンプラザホテル釧路 3階 「万葉」
- ・出席者 来賓:18名 荷受:54社 83名 商社:10社 19名
生産者代表:6組合 7名 荷主:45社 65名
関係団体:2団体 3名 その他:2名 報道機関

I 開 会

II 主査者挨拶 代表理事会長 宮崎 征伯

- ・ 道東では、ロシア200海里内、サケ・マス流し網の禁止で、サンマ・秋サケの比重が大きくなっており、サンマで失敗すると道東は埋没する危険性もある。
- ・ 北太平洋漁業委員会で国際的資源管理の議論もされているが、限られた資源を有効利用し、生産者・加工業者・流通業者が商戦を成功させる懇談会になる事を期待。

III 来賓挨拶

- 釧路市市長 蝦名 大也 様
- 築地魚市場株式会社 代表取締役社長 吉田 猛 様
 - ・ 昨年は、北海道のメインの水産物が、ことごとく振るわず、産地の方々は苦勞されていると思う。我々流通業者も非常に危惧している。
 - ・ 我々も消費者も北海道の水産物が欲しい。水揚げの減少に歯止めをかけ、回復させるためには、国際協調も必要。国や道に交渉・取組をお願いしたい。

IV 来賓紹介

V 講 演

演 題 「今年のサンマ・イカ・サバ・イワシ漁の見通しについて」
講演者 地方独立行政法人北海道立総合研究機構水産研究本部
釧路水産試験場調査研究部 部 長 中多 彰文 様
研究職員 守田 航大 様

VII 全体討議(総合司会:(株)マルサ笹谷商店 笹谷社長(副会長))

サンマの部、イカ・鮮魚の部(司会:(株)カネコメ高岡商店 高岡社長)

- アニサキスについては、消費者に注意喚起や正しい情報発信をしながら、安全・安心なものを提供していく事が検討課題。末端の量販店等ではPOP等を使っての注意喚起や、加熱すれば人体に影響が無いことを説明している事例もある。
- 公海サンマ資源については、北太平洋漁業委員会で議論が進められているが、日本で美味しいサンマが取れる時期に資源枯渇がないよう調整することが重要。
- 異物混入、規格・量目の問題が指摘されているが、関係業界一体となって、製品の規格や表示の適正化等に努め、安全で良質な製品づくりを図る事が重要。

VIII 閉 会